

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人社団 康晏堂 石内医院		
事業所名	グループホーム「東海の里」	ユニット名	笑笑館
所在地	宮崎県延岡市水尻町225番地1		
自己評価作成日	令和5年9月19日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念「今を喜ぶ」を具現化すべく、入居者様が安心して生活していただき、できる限りお1人お1人、それぞれのペースで過ごすことができるよう、声かけや対応を工夫している。
 ・その方に対し、良い対応支援があった時にはスタッフに周知し、統一したケアが行えるように努めている。
 ・利用者様の要望に対して、スピーチロックをしない。今すぐにはできないことに対しても説明を行い理解を得るように心がけている。
 ・身体拘束を行わない努力と工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い園庭には実のなる木や四季折々の木々が植えられ季節の移り変わりを感じ取ることが出来、その中で利用者は自由に散歩できる環境になっている。職員は利用者の日々の暮らしの、その時その時を大切にいきいきと楽しんでいると感じてもらえるかを考え工夫や努力を惜しまず支援に取り組んでいる。医療連携も整っておりこまめな往診や緊急時・重度化の対応も期待でき利用者・家族から安心と感謝を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「今を喜ぶ」を大切に、定例会議の初めに出席者全員で唱和を行なっている。その理念に沿って支援が行えるように日々努めている。	設立時の基本理念「今を喜ぶ」を大切に日々支援に努めている。前回の評価時を機会にホーム全体の課題とし問題点、改善点等話し合いの場を設け実践に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症が落ち着いてきているが、高齢者施設ということもあり、地域との交流は再開できない状況にある。以前は地域との交流は行っていた。	地域の小学校の駅伝大会ではフェンス越しに皆で応援を行っている。又地区のクリーン作戦には職員が参加し地域の一員として関わりを持つ努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域の区長や民生委員さんが参加しており、その場にて情報発信を行なっている。地域の方々への地域貢献はなかなか行えていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には管理者が出席している。会議の内容は議事録を見て把握している。サービスの向上につながる意見があれば改善するようにしている。	会議には区長や民生委員、薬局の方等多彩なメンバーの参加があり、各々情報を受けサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は主に管理者が行っている。その内容等は申し送りノートや朝のミーティングなどで伝達され、スタッフに行き届いていると思う。	認定調査についての相談や意見を貰ったり、行政と家族との連絡調整をする等協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修には毎年参加し、伝達講習でスタッフに周知している。また門扉は閉まっていることが多いが、少しでも開けられるようにしている。	利用者はユニット間を自由に行き来できている。広い敷地内を散歩したり落ち葉拾いをする利用者を職員はさりげない見守りをしながら自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会には毎年誰かが参加するようにしている。そして伝達講習で周知徹底している。虐待が見過ごされないように努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度を使用している入居者は今のところいっしょにいないが、必要な方や希望する方には、情報提供が行えるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することは管理者が行っている。契約時には十分な説明を行い、理解と納得を得ていると聞いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や主任が中心となり、ご家族と密に連絡を取っている。面会が可能ときは対応したスタッフが意見などを伺うように努めている。	利用料を持参して頂くことで面会をする事や意見・要望を引き出す機会としている。出された意見や要望はサービス向上に生かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる定例会議や、個人面談などで、職員の意見を聞く機会を設けている。また意見をあげることもでき、提案を反映させていると思う。	連絡ノートを活用し、出された意見は定例会議やユニット会議に於いて話し合い運営に反映させている。最近の意見では職員の休みについて話しあい反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員数の増減はあるが積極的に採用は行っていると思う。 休みも守られ、有休も使用できているので、労働条件は守られていると思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数や経験に応じた教育制度はなかなかできていないと思う。 人員不足で個人の資質に任せている所がある。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会の研修に年1回は正職員が参加して、他事業所のスタッフと交流ができていたが、コロナで難しかった。オンラインでの交流は難しい。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された方には環境や人に慣れるまでは十分に時間を割いて対応するようにしている。また入居前に関わったスタッフから情報をもらうようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの意見も十分に伺い、内容によっては、職員全員で話し合い、対応するなどして、関係作りに務めるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの意見や要望から必要なサービスを見極めて提供している。グループホームではサービスに制限があるので、適切に対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とコミュニケーションを図りながら一緒にできることを探し、それを行うように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書を郵送する時に施設や入居者の状況などが分かる近況報告を行なっている。家族との絆が切れないうちに心がけている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居期間が長くなるにつれ、ご家族やなじみの方との関係が薄くなってしまっている。またコロナ禍ということもあり、もっと難しくなっているように感じる。	病院受診の帰りを利用し自宅周辺のドライブをしたり面会や電話での連絡を取り持つ等、繋がりを継続できる支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じユニット、同じテーブルに座る方々とコミュニケーションが図れるように配慮している。些細なことからトラブルにならないように注意している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方、お亡くなりになられた方のご家族との交流は数件しかない。 その他の方が相談等にいられた時は支援するようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を自ら発信できる方であれば話を聞くなどし、また困難な方は態度や表情などから読み取り、その方らしい生活が出来るよう支援している。	日々かかわりの中で利用者一人ひとりの思いや意向を把握しており職員はそのサインを見逃さずケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでの生活環境の情報は、入居される前にご家族や利用されていた事業所、またご本人様から伺い、その情報を共有している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やサマリー等、申し送りなどで一人一人の状況を把握するように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主任を中心に入居者やご家族のご意見、職員の情報などを収集してケアプランの作成を行なっている。日々の介護の中で気付いた点などで見直しも行っている。	利用者や家族の要望、職員の意見、申し送りノートの情報を参考にして現状に即した介護計画を作成している。家族から車椅子であっても外出させたいなど要望を受け計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録や業務日誌、申し送りノートなどから情報を共有し、スタッフ間で検討しながら計画の見直しなども必要時には行なっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族からの意向に沿えるよう柔軟な対応を行なっている。但し、個人の状態によっては対応できない場合があるので、入居者全員が利用できるとは限らない。			

宮崎県延岡市 グループホーム「東海の里」(笑笑館)

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍ということもあり、地域とのかかわりが薄く、本人の力が発揮できる場が少ないと思う。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は石内医院が担当。往診、処方、検査を行なっている。その他、希望される場合や緊急時には主治医の紹介で随時受診できるようになっている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	石内医院と医療連携を行なっており、入居者様の病状に関しては相談、対応が適切に行っている。施設内の看護師にも随時相談できるような体制が整っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入退院の対応は、基本的に管理者やユニットリーダーが行なっている。情報共有のため、担当者が対象者の現状をレポートに纏めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、主治医からの病状説明がご家族に行われ、その情報を受けグループホームで出来る事、ご家族が望まれることなどを聞き取り、方針を決めている。		主治医がホームでできる事を説明し利用者、家族本位の支援をしている。開所当時から看取りは行い、職員は急変や事故発生時の為の研修や勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のため、研修や勉強会を行い、発生時には医療機関との連携も適切に行っている。それに関する勉強会はもっと増やした方が良いと思う。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練と消火訓練を行なっている。5月は夜間想定、10月は日中を想定して行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、尊厳と権利を守り、傷つけないような介護を行なっている。言葉選びなど、基本的なことに注意しながら行なっている。	入浴・排泄等に於いては誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応をしている。衣類の汚れた利用者には本人の居室や脱衣所に誘導し更衣するなど配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言われる方は少なく、自発的に何かをする方が居ないのが現状。 ただし、自己決定できるような心構えはスタッフに伝達している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力はしているが、自発的に意見を言われる方や行動される方が居ない。 ただし状況に応じて支援は行なっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことができる方は選んでいただいている。 出来ない方はスタッフが選んで差し上げている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物、苦手な食べ物などは、出来るだけ把握して無理して食べないように配慮している。手伝って頂けることがあればお願いしている。	庭先で採れる季節のツワブキの皮むきなど利用者の能力に応じ参加してもらっている。重度化に伴い食事を忘れていた利用者には職員の技術や工夫で食事への関心を引き起こしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は無いが、準備された食材でバランスの良い調理ができるように心がけている。 摂取量を記載し、食事がとれているかを把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。 また訪問歯科を利用されている入居者様もいるが、全員が利用しているわけではない。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の意思表示ができない方は定時で排泄介助を行なっている。 オムツ内に排泄を行なっている方もいるが、適切に交換を行なっている。	利用者の中には布パンツの方もいる。重度な利用者を職員三人でトイレでの排泄を支援している。又尿量に応じパット類も本人に合わせ検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を付け、便秘の方には食事の工夫や、緩下剤を服用して頂くなどの管理を行なっている。副作用で便秘になりやすいなどの理解もしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必ず入浴の声掛けを行い意思の確認を行なっている。 拒否される方もいらっしゃるが、時間をおいて再び声掛けを行うなどの対応を行なっている。	利用者の重度化に伴い職員三人対応での入浴介助の方が数名いる。利用者、職員共に負担がありシャワー浴になっている。好みの湯温や衣類交換を拒否する利用者もいるがその人に合わせて入浴を支援している。	現在まで28名の看取りを行い利用者の重度化は顕著である。特に入浴に於いて利用者、職員の負担が大きくなっている為現状に合った環境設備を整える事を期待したい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の意思を確認しつつも昼夜逆転にならないように注意しつつ、休息をとってもらっている。ソファなどでくつろいでもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から処方されている薬の写真と説明を確認し、薬の内容も把握している。 作用や副作用も把握するように努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化しているため、できることが少なくなってきたが、その中でも、出来ることを探し、一人一人に合った楽しみごとを探している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外の散歩やドライブは以前は行っていたが、コロナ禍の今は行っていない。 家族との外出も今は行っていない状況である。	近くに新しい公園ができ春桜見をした。そばの道路には歩道があり車の通りも少ない事もあり散歩をしている 日常的に園内は自由に散歩が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は家族管理でお願いしているが、数名の方は施設で少量のお金を預かっている。 現金を使うことは少ない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する方は居ないのが現状。 ご家族にSNSでのビデオ通話ができることをお伝えしているが、利用はほとんどない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを行うなどをしている。 また、イベントごとが行われるときはポスターなどで皆様にお伝えしている。	フロアと台所間のカウンターが低く利用者は調理している職員が近くにいるという安心感がある。フロアから続くサンルームにはソファや畳が敷かれくつろいで季節の変化が感じ取れるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が隣り合うように席の配置に心がけている。 多目的室のソファでゆっくりと過ごしていただくなどの声掛けを行なっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口にお名前を表示している。またトイレなども分かるように表示を行うようにしている。 お部屋に写真を飾るなども行なっている。	各居室には大きめのクローゼットが設けてあり殆どの利用者が思いの物を収納している。床にジョイントマットを敷いたり手摺に緩衝材を施すなどその人に応じた居室作りがしてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とホールを自由に安全に行き来できるように手すりが設置してある。また館内はバリアフリーで安全に生活ができるような工夫が施されている。			